動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2939番
（公）043（222）7207番

97.12.19 No.4711

活発な討論で闘う方針を確立

館山支部 20回大会

一二月十六日、館山市静海荘において、館山支部第二〇回定期大会と支部乗務員分科提起総会が合同で開催された。大会は、近藤君を議長に選出して開会。冒頭あいさつにたった笹生支部長は、「われわれは、永い間解雇撤回・清算事業団闘争勝利に向けて、恒常的スト体制を確立して闘ってきた。そしてその団結力で解雇撤回をかちとることができた。この勝利にふまえ、明日から強制配転者の原職奪還に向け、また新ガイドライン粉砕に向けて新たな闘いが始まる。

この間館山では、国労からJR総連への脱退という動きがあったが、直ちに職場集会を開催して全員がオルグする体制をとってきた。われわれは職場の団結を守るためにもこのような動きは許さない」と提起。また、坂本乗務員会長は、「大月や長野の事故は、JRによる運転士の促成栽培などがもたらした事故だ。JRの責任を追及しなければならない。動乗勤の改善や運転保安確立に向けて活発な議論をお願いしたい」と訴えた。

続いて、労金館山支店、辻田市議会議員、本部中野委員長より来賓の挨拶を受け、議案の提起の後、活発な質疑が行われ、満場一致で方針を採択した。

【だされた主な意見】

● 団体生命保険に関する文書が配られているが、どういう内容か。また支部として統一方針を決めるべきではないか。

● 来年十月で清算事業団が解散すると言われているが、こうした動きとの関係で、一〇四七名の闘いはどうなるのか。

● 勤務の取り扱いが変更されたが、どのような内容なのか。

● 労基法が改悪されて九九年から施行されるが、その内容はどのようなものか。

【支部新執行体制】

支部長	笹生 亘
副支部長	高木 幸雄
	原 一夫
書記長	鳩飼 良雄
書記次長	石井 智
執行委員	福原 克巳
	神作 重夫
特執	赤羽根 昭男
	塩崎 昭広
	廣瀬 安男
	鈴木 晴夫
	和田 政幸
	坂本 好男
会計監査	渡辺 雅昭
	佐藤 幸

【乗務員分科新役員】

会長	坂本 好男
副会長	小沢 智
事務長	堀江 秀明
委員	近藤 伸二
	梶江 真一
	宇佐見 悦男
	加瀬 豊
	都崎 恒夫
会計監査	鈴木 康弘
	渡裕 基

闘う団結が職場を守る

幕張支部 20回大会開く

一二月十七日、千葉市民会館において、幕張支部第二〇回定期大会が開催された。大会は、高橋君を議長に選出して開会。冒頭あいさつにたった石幡支部長は、「一年をふり返って見ると、一番大きな勝利は、二八名の解雇撤回をかちとったことだ。私たちは日本の労働運動が始まって以来のことをやりとげた。団結と組織を守りぬく闘いがあったからこそ解雇撤回があり、すごい喜びがあった。

世界の情勢も国内の情勢も厳しいが、闘う労働組合があってこそ、権利を守り明るい職場を守ることができる。物販などで各地の組合を回っていると、闘う労働組合の必要性を強く感じる。幕張支部もっともっと飛躍しなければならない。さらに一致団結して来年・再来年と頑張っていきたい」と訴えた。

また、本部からは三役が出席し、中野委員長が来賓のあいさつを行った。続いて執行部より経過・方針の提起を受け、活発な質疑の後、満場一致で方針を採択し、新執行体制を選出。支部長の力強い団結ガンバローの音頭で大成功のうちに大会を終了した。

【だされた主な意見】

● 来年三月のダイ改についてどのような提案が行われているのか。

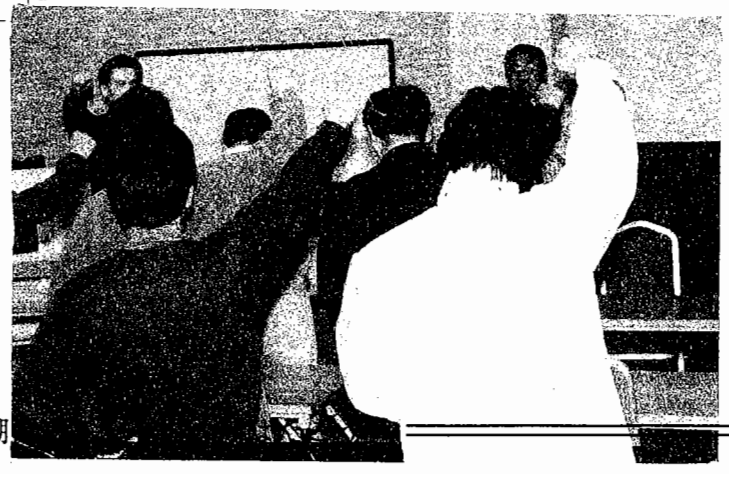
● ストライキのときに他労組がスト破りをやっている。三六協定を破棄して頑張るような闘争方針を採用するべきではないのか。

● 五五歳、五七歳時の賃金の取り扱いはどのようになっているのか。

● 技能競技会が業務命令で強制されている。このような取り扱いはどう考えてもおかしい。中止させることはできないのか。

【新執行体制】

支部長	石幡 佳和
副支部長	斎藤 常男
	繁沢 敬一
書記長	小沢 勇
執行委員	木村 栄勇
	高橋 巳
	市東 勝
	渡辺 護
	山田 正
特執	井上 孝弘
会計監査	樣沢 武夫
	高田 史昌



新たな10万人合理化粉砕!! 労働運動の新たな潮